

令和3年度自己点検評価結果

学 長

I 教育活動

・改善した点等

- ① 学部旧教育系・学校教育系の令和3年3月卒業者の教員就職率（進学者・保育士を除く）は58.4%で、令和2年3月卒業者の55.7%から2.7ポイント上昇した。
- ② 大学院教育学研究科の令和4年度入学者選抜において、教育学研究科全体の志願者数は498名と前年度の458名から40名増加した。修士課程の令和4年4月の入学者は110名で、令和3年4月の入学者99名から11名増加し、入学定員（109名）を満たした。
- ③ 大学院連合学校教育学研究科における常勤就職率（平成8年度～現在まで）は79.8%で前年度の79.0%から0.8ポイント増加し、高い率を維持している。

・改善を要する点

- ① 学部の入学志願者数（一般選抜）は、令和2年度入学者選抜から3年連続（R1:3, 111, R2:2, 894, R3:2, 712, R4:2, 638）減少している。
- ② 第3期中期計画における学部の旧教育系・学校教育系の教員就職率（進学者・保育士を除く）の目標値70%を平成28年度から令和2年度において、62.1%（H29.3:68.2%, H30.3:64.2%, H31.3:64.0%, R2.3:55.7%, R3.3:58.4%）と目標値を下回った。
- ③ 教職大学院の令和4年4月の入学者は193名で、入学定員（210名）を満たさなかった。

・その他

第3期中期計画における教職大学院の教員就職率の目標値90%（ストレートマスターのみ）を、令和3年3月の教員就職率89.6%と目標値を下回った。令和元年度に大学院教育学研究科の改組行い、教職大学院の入学定員を40名から210名増やしたことによるものであり、第3期中期計画期間全体では90%を上回る予定である。

II 研究活動

・改善した点等

令和3年度の産学連携研究数は60件で、前年度の54件から6件増加した。

・改善を要する点

令和3年度の科学研究費助成事業の新規採択件数は33件で、前年度46件から13件減少した。

III 社会貢献活動

・改善した点等

コロナ禍による活動制限の中で対応を工夫し、高大連携事業64回（前年度27回）、公開講座61講座（前年度11講座）、附属学校現職教員研修講座33講座（前年度21講座）などの開催数が前年度を上回った。

・改善を要する点

特になし

IV 国際交流活動

・改善した点等

コロナ禍対応の規制緩和もあり、大学間交流協定校からの受入学生41名（前年度12名）、派遣学生15名（前年度4名）、短期留学者27名（前年度2名）と派遣・受入数が前年度を上回った。

・改善を要する点

特になし

V 大学運営

・改善した点等

特になし

・改善を要する点

大学教員の年齢構成に偏りがあり、30歳代の教員が少ない状況である。